

第18回プロテオーム医療創薬研究会

実施日	2010年3月8日(月) 17:30~19:00
場所	横浜市立大学福浦キャンパス第2講義室
来場者	人数：学生及び研究者 23名
内容	<p>「プロテオミクス解析による自然免疫活性化経路の解明と応用」と題し、大学院生および若手研究者を対象とし、本学医学研究科分子生体防御学准教授 武下文彦先生によるセミナーを開催した。武下先生のグループは主にプロテオミクス解析を用いて自然免疫活性化シグナル経路や効果的ワクチンの研究・開発を行っている。今回の発表では、病原体ゲノムなどの2本鎖DNAが宿主自然免疫で重要な因子であるI型インターフェロン（IFN）産生を誘導する細胞内シグナル経路に関して、武下先生のグループがあきらかとしてきた以下のトピックスについて報告された。</p> <ol style="list-style-type: none">1) 染色体外ヒストン H2B による細胞質 DNA 認識と細胞活性化機序2) 小胞体テトラスパニン STING の修飾機序と I 型 IFN 産生における役割3) A 群連鎖球菌 (GAS) による I 型 IFN 産生機序と病原性因子としての DNase4) プロテオミクス解析による緑膿菌ワクチンの改良